

平成26年度中期発がん性試験候補物質に関する試験媒体の検討結果

(日本バイオアッセイ研究センターでの検討結果)

	物質名	CAS No.	製造元 (Lot No.)	水溶性	溶液の変化	オリブ溶解性	溶液の変化
1	1,4-ジブロモブタン	110-52-1	和光純薬 (PDL5143)	200mg/mL 不溶	—	200mg/mL 溶解	変化なし
2	1,2-ジクロロ-4-ニトロベンゼン	99-54-7	東京化成 (L487A-TN)	200mg/mL 不溶	—	200mg/mL 溶解	変化なし
3	4-tert-ブチルフェノール	98-54-4	東京化成 (W7QEO-ND)	200mg/mL 不溶	—	200mg/mL 不溶(懸濁)	— (変化なし)
4	2-クロロピリジン	109-09-1	東京化成 (WB5EG-EG)	200mg/mL 不溶	—	200mg/mL 溶解	変化なし
5	1,4-ブタンジオールグリシジルエーテル	2425-79-8	東京化成 (Z0KKH-FD)	200mg/mL 溶解	変化なし	200mg/mL 溶解	変化なし
6	臭素酸ナトリウム	7789-38-0	和光純薬 (RCE7440)	200mg/mL 溶解	変化なし	200mg/mL 不溶	—
7(次候補)	1,2,3-トリクロロベンゼン	87-61-6	和光純薬 (KWE1881)	200mg/mL 不溶	—	200mg/mL 溶解	変化なし
8(次候補)	5-ニトロインダゾール	5401-94-5	東京化成 (XY229-NOKP)	200mg/mL 不溶	—	200mg/mL 不溶(懸濁)	— (変化なし)

●反復投与の上限投与量1000mg/kg(投与液量5mL/kg)として、200mg/mLの調製溶液の溶解性について確認した。

●1,4-ジブロモブタン、1,2-ジクロロ-4-ニトロベンゼン、2-クロロピリジン、1,4-ブタンジオールグリシジルエーテル、臭素酸ナトリウム、1,2,3-トリクロロベンゼンについては、200mg/mL以上の溶解度を確認した。

●4-tert-ブチルフェノールについては、オリブ油に懸濁して投与可能。

●5-ニトロインダゾールについては、MTD次第で投与可能な懸濁液の調製可能。